

ICT活用授業デザインワークショップ

学校に急速に導入されているICTを有効に活用するために、現職教員と学生・院生が協同してワークショップを行いながら、授業デザインに取り組んでいます。



ワークショップの様子

活動の概要

目的	子どもが考え表現することを核にした授業のデザインを、ICTの有効利用との関連で実現すること
連携メンバーおよび役割	株式会社学研ホールディングス …学研が開発したデジタルコンテンツや教材等を授業で使って効果を検討している スカイ株式会社…会議室と大型プロジェクションを使用してワークショップを実施 現職教員…ワークショップに参加し授業構想の発表・検討・報告を行う 関西大学総合情報学部教授 黒上晴夫…ワークショップ全体のスーパーバイス 関西大学大学院生…ワークショップのファシリテーションに関するアドバイス 関西大学学部生…ワークショップの立案、準備、司会
活動地域	ワークショップは大阪・新大阪で開催（対象は兵庫県・大阪府・京都府・奈良県など在勤の現職教員）
活動期間	2002年～（継続中）

連携の経緯

活動開始当初は、教育映像の制作企業などの協力を得て、デジタルコンテンツの活用方法を現職教員と学生・院生とともに考える研究会であった。その後多様なICTの導入を背景に、また授業の焦点が「わかる授業」から「考える授業」に移行する中で、単元の流れとICT活用をより有機的・全体的にデザインする必要性を感じ、また全員でそれを考えることの重要性に鑑み、現在のワークショップに活動を変更した。

解決すべき課題

- (1) ICTの有効利用
- (2) 知識・技能の活用型授業のデザイン

大学の役割

学校に急速にICTが導入されている。また、新学習指導要領では習得した知識や技能を活用する授業が求められている。ICTは、知識や技能の習得に用いるのは容易だと思われるが、一方でアイデアを共有したり表現したりする学習者中心の授業をサポートする力も大きい。このワークショップでは、ICTを活かしながら知識・技能の活用場面をどのように無理なく単元全体の流れの中で実現するかを議論しながらデザインする。

毎回のワークショップでは、参加する教員がこれから実施する単元を一つとりあげる。基本的な流れは以下のとおりである。

- ①教科書や指導書の記述について整理する。
- ②授業の実施校の施設やそれまでの学習状況などを背景に、確実に内容を理解させるための流れについて検討する。
- ③教科書の情報では不足する点、学習内容の順序を変更すべき箇所などを洗い出す。
- ④思考を誘い、理解を深めるためにはどのような学習活動が必要かを明らかにする。
- ⑤学習内容の分かりやすい提示、思考の深化、考えたことの共有・発表、などの場面におけるICTの活用方法を検討する。

この流れを基本として、各単元のデザインにあてはめながら資料を揃えて流れを微調整する計画を学生・院生がたてる。ワークショップの司会は学生が行う。教員は、ワークショップに参加しながら全体を見て必要ときにアドバイスを行う。

成果

- (1) 現場におけるICT活用の促進
- (2) 現場における活用型授業の促進
- (3) 学部生の授業に関するセンスの醸成
- (4) コミュニティの形成

今後の展望

- (1) 若手メンバーの勧誘
- (2) ワークショップの成果を振り返る機会の確保
- (3) ワークショップ会場の確保

現場の声



・浅香一世氏（高槻市立北清水小学校教諭）

教育に熱意をもった人たちが集まるIW研に参加するとアイデアがうまれます。ワークショップで議論し、情報交換をするからです。毎回楽しく参加しています。



・早川文氏（高槻市立阿武山小学校教諭）

研究者と現場の人間が互いに情報や知恵を出し合い、一つの具体物を創っていくところが、大きな魅力の一つです。普段得ることのできない考え方や情報を得ることができそうです。

研究者の紹介



総合情報学部 教授
黒上 晴夫
（くろかみ はるお）

思考スキルを育てる方法、カリキュラムと授業のデザイン、ICTの有効利用などを研究の中心とし、学校の授業研究のアドバイスを行っている。